

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施中間結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内中間評価		ご意見等をご記入ください。
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	
1 教育課程 学習指導	<p>①普通科は、外国語教育・理数教育を重点化し、探究的な学びの推進、教科等横断的な学びの推進により教育課程の深化を図る。</p> <p>②専門学科は、専門力の向上と教育課程の共通化をいかした学力向上をめざす。</p> <p>③外国につながるのある生徒への支援体制を強化する。</p>	<p>①②STEAM教育研究推進校として、これまでの取組を踏まえ、教科等横断的な学びや探究的な学びの深化を図り、全学科の生徒の能力を伸ばさせる教育をさらに推進する。</p> <p>②教育課程の共通化をいかし、専門学科の生徒の学びの深化を図る。</p> <p>③外国につながるのある生徒と他の生徒との交流を図る。</p>	<p>①教科等横断的な学びや探究的な学びによって培った能力を活用する教育活動を実践する。</p> <p>①②授業研究期間を設け、教科等横断的、探究的な学びをテーマとした授業研究を行い、共有していく。</p> <p>①②英語の外部検定試験の利用方法について周知を図ることにより、受検を推奨する。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に多文化教育コーディネーターや学習支援員と連携、協力しながら必要な支援を企画、運営する。</p> <p>③CEMLAスクール主幹校として、運営協議会参加校と連携しながらスクールの活性化に努める。</p> <p>③YAEIアクト部を中心に外国につながるのある生徒が他の生徒と交流できる企画を計画し、運営する。</p>	<p>①②生徒による授業評価1、2回目共に、教科等横断的の実現の項目の「肯定的な回答」の回答率が70%以上になったか。</p> <p>①②探究活動における外部発表会(コンテスト)等の参加人数が1、2年次で120人以上参加したか。</p> <p>①②生徒による授業評価を各科目で細かく分析し、授業改善に活用できたか。</p> <p>①②英語の外部検定試験の生徒数を調査し、全体の状況を把握できたか。</p> <p>①②英語の外部検定試験を利用した大学入試の受験者の推移を分析し、校内での外部検定試験の実施を検討することができたか。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に、担任、部活顧問等の教職員や活動に興味のある生徒が、CEMLAスクールに関わることができたか。</p> <p>③国籍に関わらず生徒が広く交流する企画を実施することができたか。</p>	<p>①②生徒による授業評価1回目の教科等横断的の実現の項目の「肯定的な回答」が72%だった。</p> <p>①②探究活動における外部発表会等の参加人数は現在集計中である。</p> <p>①②生徒による授業評価を各科目で分析し、学校全体で共有した。</p> <p>①②英語の外部検定試験の受験者数、利用した大学入試の受験者数は現在集計中である。</p> <p>③関係機関と連携しながらCEMLAスクールの運営を滞りなく進めることができた。本校生徒がボランティアとして参加した。</p> <p>③弥栄ワンダーラボやWE FES文化の部では、外国につながるのある生徒と弥栄アクト部が協力しながら参加し、交流を深めることができた。</p>	<p>①②後期に向けて教科等横断的をテーマとした研究授業等により授業改善を実施し、回答率の向上を目指す。</p> <p>①②分析結果で共有した内容を、授業改善に生かす。</p> <p>③次年度に向けての計画と引き継ぎを行い、引き続きCEMLAスクールの円滑な運営を行う。</p> <p>③より多くの生徒が交流できるような企画を計画し、広く参加を呼びかける。</p>	
2 生徒指導・ 支援	<p>①生徒が起点となる主体的活動の経験値を重ね、活力と発信力のある生徒を育成する。</p> <p>②サポート体制の強化により教育相談体制の充実を図る。</p> <p>③安全な交通社会の一員として交通安全教育の推進を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む探究的な視点を持った行事と、普通科生徒と専門学科生徒が融合した部活動を学校全体で支援し、学科融合型の相乗効果の充実を図る。</p> <p>②機動性の高い教育相談体制の充実を図り、事案の早期把握と早期対応を目指す。</p> <p>③日常的な交通安全指導と地域での交通安全教育をさらに推進し、安心、安全な学校生活を支援する。</p>	<p>①生徒が主体的に考えて、行事を企画、運営できるようにする。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を促進する。</p> <p>①部活動において、指導体制の確立を図り、文化部、運動部ともに普通科と専門学科の生徒が融合した活動を支援し、実績を高める。</p> <p>②教育相談コーディネーター、SC、SSWとの連携を密にし、教育相談体制をさらに充実する。</p> <p>③交通安全講話や春秋の交通安全デー、自転車ヘルメット着用や自転車点検等の交通安全教育活動を充実する。</p>	<p>①生徒主体で活動が行える実行委員会形式を確立することができたか。</p> <p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充、精選を図ることができたか。</p> <p>①部活動において学科融合型の相乗効果が得られ、部活動の満足度を向上することができたか。</p> <p>②研修を通して職員の教育相談における理解を深めることができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーターを中心に早期発見、対応や情報共有ができる体制を構築することができたか。</p> <p>③交通安全に関する各啓発活動をより充実することができたか。</p> <p>③ヘルメット着用率をあげることができたか。</p>	<p>①生徒主体の行事实行委員会は確立できたが、企画・運営を教員が支援した場面が多々あった。</p> <p>①WE FESの発表や創作等の成果に各学科の特色が反映され「SAGM Synergy」の理念が拡充した。</p> <p>①生徒への部活動アンケートを12月に実施予定である。</p> <p>②職員研修はできていないが生活グループを中心に、ケース会議を開くことにより、教育相談における理解を深めた。早期に対応できるように、各年次や管理職と情報共有を行った。</p> <p>③交通安全講話、交通安全デー・週間、下校指導の啓発活動を実施した。</p> <p>③ヘルメット着用率を調査する予定である。</p>	<p>①最小限の支援で、生徒が主体となるWE FESを充実させていく具体的な方法を検討する。</p> <p>①近隣学校との連携で地域活動の充実を図る。</p> <p>②職員研修の実施を検討していく。不登校気味の生徒が複数いるので、担任や各担当と情報共有を図りながら支援を継続する。</p> <p>③年度当初は事故件数が多かったが、現在は昨年と同じ件数である。注意喚起を継続していく。</p>	

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内中間評価		ご意見等をご記入ください。
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	
3 進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの才能を伸ばす個別最適な学びの推進により、国公立・難関私立大学への進学をめざす。</p> <p>②困難な状況にも屈せず立ち向かうたくましい弥栄人を育成し、卒業後の姿を自ら描けるキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>①上級教育学校の情報収集を行い、生徒個々のニーズに応じた多様な進路情報を提供する。</p> <p>②「総合的な探究の時間」の充実を図り、生徒個々の進路実現を支援する。</p>	<p>①全体の進路説明会に加えて、分野別、学部別説明会等を行い、生徒個々のニーズに応じた進路活動の支援を図る。 ①教員向け進路研修会等を実施し、学校全体で生徒個々の進路実現に向けた支援の強化を図る。</p> <p>②外部機関等を活用し、体験的な学習、探究の機会の充実を図る。 ①②キャリア教育、進路活動における「やえいノート」の活用を図る。</p>	<p>①分野、学部別説明会を新たに設定し、生徒個々の進路実現に向けて進路支援を図ることができたか。 ①教員向け進路研修会を2回開催し、大学入試の情報を得て進路指導力の向上を図ることができたか。</p> <p>②外部機関等の活用によって、体験的な学習、探究の機会の充実を図ることができたか。 ①②「やえいノート」を活用する場面を多く作ることができたか。</p>	<p>①大学入学共通テスト、総合型選抜や学校推薦型選抜の説明会等を実施した。教員志望の生徒へ向けての講演会を実施した。 ①教員向けの進路研修会を1回実施した。参加率は20%程度であった。</p> <p>②外部機関等を活用を意識し、探究の機会の充実を図ることができつつある。 ①②「やえいノート」は現在活用中である。</p>	<p>①選抜試験別の説明会等は実施できたが、分野・学部別の説明会等はさらに継続して行っていく。経済・経営や医療系等の説明会を実施していく。 ①参加率が高まるよう効果的な進路研修会を実施する。</p> <p>②さらに体験的な学習の機会の充実を図っていく。 ①②「やえいノート」に何を蓄積していくか検討し、進路に活用できるようにしていく。</p>	
4 地域等との協働	<p>①地域の小中学校・特別支援学校・大学や博物館等との機動的な連携を図り生徒の自己有用感につなげる。</p> <p>②地域との協働により地域貢献意識の向上を図り地域に信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>①地域の学校等の機関と連携し、生徒が地域と積極的に関わることで視野を広げ自己有用感を育む。</p> <p>②地域の学校等との協働により、開かれた学校づくりを推進する。 ②学校行事等の情報発信等、広報活動の充実を図ることで、本校の特色と魅力、教育活動を周知する。</p>	<p>①地域の公民館、特別支援学校、大学等との連携を深め、地域に貢献する活動に取り組む。 ①生徒の活動を通して、小中学校、公民館等の地域ボランティアとしての関わりを増やすよう努める。 ②本校の教育活動の周知をホームページやポスター等で計画的に行い、本校の魅力と特色をアピールするために、行事の報告等を適宜掲載し、ホームページによる情報発信の充実を図る。</p>	<p>①地域の公民館、特別支援学校、大学等との連携やボランティア活動に取り組みめたか。 ①小中学校、公民館等と生徒の活動による地域貢献活動が実施できたか。</p> <p>②速やかにかつ適切に本校の魅力と特色を発信するために、ホームページの更新頻度を上げられたか。 ②学校広報活動を積極的に展開するために、メディア等による学校紹介の機会を逃さずとらえたか。</p>	<p>①吹奏楽、合唱、ダンス、生活デザイン、軽音楽等の部活動が公民館等と連携し地域に貢献した。 ①小中学校等で生徒による地域貢献活動を計画している。 ②行事ポスターや、学校説明会の情報を速やかに学校ホームページに掲載している。 ②メディア等に学校紹介の機会を積極的に展開することはできていない。</p>	<p>①公民館や特別支援学校等だけでなく、大学との連携を図っていく。 ①小中学校での生徒による地域貢献活動を推進している。 ②よりの確な情報掲載やホームページ更新に努める。 ②積極的に行えるように広報していく。</p>	
5 学校管理 学校運営	<p>①広い敷地を有効活用できる環境の整備を進める。</p> <p>②防災教育・安全教育の組織的推進を図る。</p> <p>③事故・不祥事防止を徹底する。</p> <p>④働き方改革を進め、教職員の資質向上に努める。</p>	<p>①効果的な教育活動及び防災の観点から施設、設備の充実を図るとともに校内美化を推進する。</p> <p>②本校周辺や通学路の防災上の特徴をとらえ、実践的な防災対策を進める。 ③不祥事ゼロプログラムにおける目標及び行動計画を意識し、事故・不祥事防止に努める。</p> <p>④組織的な学校運営と校務の効率化を進め、長時間勤務を是正する。</p>	<p>①不要物品の廃棄、定期的な清掃の徹底により校内の美化を推進する。 ①教育活動に必要な環境整備を行う。 ①次年度のオフィス改善に向けて本校にふさわしい計画を立てる。</p> <p>②災害時に生徒自身で考えて行動できるような防災教育及び訓練を行う。</p> <p>③事故・不祥事防止の研修を通して、不祥事の防止を徹底するとともに、若い職員も含め同僚性を高め、風通しの良い職場づくりに取り組む。</p> <p>④ICT を利活用し、タイムマネジメントの視点を持って業務を遂行する。</p>	<p>①規定の手続きに従って確実に不要物品の廃棄を行い、校内美化を徹底することができたか。 ①校内の ICT 環境を整備し、機器を適切に管理することができたか。 ①職員室の環境を整え、効率的な業務ができるようなオフィス改善計画を立てることができたか。 ②生徒及び教職員の防災や安全に対する意識を高める防災訓練を実施することができたか。 ③職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。 ③風通しの良い職場づくりにするために、速やかな報告、連絡、相談体制を構築することができたか。 ④長時間勤務者の割合が前年度と比較して減少することができたか。</p>	<p>①大掃除等の機会をとらえて不要物品や老朽物品の廃棄を行った。 ①ICT 支援員や ICT サポーター等を活用しつつ、校内の ICT 環境を整えた。 ①オフィス改善計画については、基本的な枠組みを確認し、実施に向けた見通しがあった。 ②生徒対象、教職員対象の防災訓練をそれぞれ行い、非常時の動きについて確認した。希望生徒対象に AR を使用した訓練を行った。 ③職員研修を定期的実施し、必要に応じて臨時で研修を実施した。 ③速やかな報告、連絡、相談体制は構築しつつある。 ④長時間勤務者延べ人数は10月末時点で80時間以上は5人から2人、45時間以上は37人から19人に減少している。</p>	<p>①年度末にむけて引き続き不要物品の廃棄、老朽物品の更新を行っていく。 ①ICT を利活用した授業実践ができるようにしていく。 ①必要な物品を精査してオフィス改善に継続して取り組む。 ②DIG 訓練等、さまざまな形の訓練を導入し、防災に対する意識を高めていく。 ③継続して研修を行っていく。 ③職員の判断で、報告等が遅いケースがある。引き続き職員に速やかな報告等を求めていく。 ④次年度に向けたタイムマネジメントの視点を持って業務を計画する。</p>	